田沼の政治と寛政の改革

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿ 月 ＿＿＿＿ 日

古墳　飛鳥　奈良　平安　鎌倉　室町　安土桃山　**江戸**　明治

今日の問い

田沼意次と松平定信は、幕府の政治をどのように立て直そうとしただろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 田沼意次の政治

商業を生かす政治

1 18世紀後半の老中。商業の力で財政を立て直そうとした。

4 江戸の東にある沼。田沼が干拓を始めた。

5 1780年代に起こった大ききん。

18世紀後半、老中の ＿(1)＿ は、年貢だけにたよらず、商業の力を生かして幕府の財政を立て直そうとした。商人に ＿(2)＿ をつくることを認めて営業税を納めさせ、長崎貿易では銅や ＿(3)＿（海産物の干物）の輸出をふやして、金・銀を手に入れようとした。また、＿(4)＿ の干拓を始め、蝦夷地の開発やロシアとの交易も計画して調査を行わせた。

商業がさかんになり町人の力が強まる一方で、役人の間では地位を求めてわいろを贈る者がふえ、田沼の政治は批判を受けた。1780年代には冷害や浅間山の噴火が重なって ＿(5)＿ が起こり、多くの人が飢え死にした。米の値段が上がって各地で百姓一揆や打ちこわしが起こり、田沼は老中をやめさせられた。

2 寛政の改革

引きしめる政治

6 吉宗の孫で、寛政の改革を行った老中。

8 江戸の湯島にあった幕府の学校。

10 ききんに備えて、大名に米をたくわえさせたこと。

田沼のあとに老中となった ＿(6)＿ は、祖父の吉宗の政治を手本に ＿(7)＿ を行った。武士や町人に厳しい倹約を命じ、生活に苦しむ旗本・御家人の借金を帳消しにした。また、＿(8)＿ では ＿(9)＿ 以外の学問を教えることを禁じ、政治を批判する出版も取りしまり、武士には学問と武芸にはげむよう求めた。

農村を立て直すため、江戸に出てきた農民を村へ帰らせ、ききんに備えて大名に米をたくわえさせる ＿(10)＿ を命じた。しかし、厳しい取りしまりは武士や町人の反発をまねき、定信は6年ほどで老中をやめた。「白河の清きに魚のすみかねて もとのにごりの田沼恋しき」という狂歌は、白河藩主だった定信の政治の厳しさを皮肉ったものである。

人物	政治の特色	おもな政策
徳川吉宗（前の単元）	享保の改革で財政を立て直す	上げ米・公事方御定書・目安箱
(1) ＿＿＿＿	商業の力を生かして財政を立て直す	株仲間を認める・長崎貿易・印旛沼の干拓
(6) ＿＿＿＿	寛政の改革で引きしめる	倹約・朱子学以外の学問を禁じる・囲米

できた ＿＿ / 10

ちりつもドリル
学校・家庭・塾・教室での印刷と配布は自由です。ウェブへの掲載・販売はできません。